このたびは数あるスピーカーの中から GENELEC 8030A をお選びいただきありがとうございました。

製品の概要

8030A は 2 ウェイ 2 アンプ方式のコンパクトなサイズでありながら高出力、ワイドレンジでフラットな周波数特性を実現した高性能アクティブ・モニター・スピーカーです。
本体内部のパワー・アンプ、ドライバー・ユニット、アクティブ・クロスオーバー・フィルター、保護回路などはアクティブ・スピーカーとしてトータル・バランスに優れたものを使用しています。
新開発のアルミダイキャスト製 MDE エンクロージャーと最新型 DCW プレートの相乗効果で音響的な反射干渉を最小限にとどめ、すばらしい再現性を実現しています。また、低域の補強用として別途 7050B または 7060B サブウーファーを併用できます。

配置

8030A は 1 台に対して 1 本の AC 電源コードが付属します。AC 電源の電圧は 100 V 専用です。聴取位置方向に対して正確に音響軸を調整してください（図 1 参照）。

接続

電気的な接続が完了するまでは本体の電源スイッチを入れないで、ボリューム・ノブは完全に音量を絞りきった状態（反時計回り）にしてください。また、電源コードのアース線は接続することをお薦めします。音声信号の入力端子はメス座の XLR 端子です。入力インピーダンスは 10 kΩのバランス仕様です。アンバランス仕様の音声信号を入力する場合は図 2 のように XLR 端子の 3 番ピンと 1 番グランドをショートさせてください（2 番ピンが Hot です）。
XLR オス座の端子は音声出力用で、別の 8030A とディジーチェーン接続（6 台まで）や 7050B サブウーファーとの接続時に使用します。この端子からは音量調節された音声信号が出力されます。ディジーチェーン接続する場合はマスター機のボリューム以外（スレーブ機）はフルに音量を上げた状態（時計回り）に固定してください。
すべての接続とセットアップが完了した時点で本体フロント・パネルの電源スイッチを ON にしてください。

音量調節

音量調整は接続するミキシング・コンソール側で行うことを想定していますが、フロント・パネルのボリューム・ノブを使っても行えます。

トーン・コントロール

8030A は設置される場所や方法に適合させるために周波数特性をコントロールする機能を持っています。リア・パネルにある 4 つの DIP スイッチの組み合せでこれを行います。工場出荷時は無響室でフラットな特性が得られる状態になっています。様々な音源を聞き比べて注意深く調整を行ってください。

- **TREBLE TILT（SW1）：**5 kHz よりも上の高域のレベルを約 2 dB 減衰します。高域のきらびやかさを押さえたいときに滑らかに高域を抑制できます。吸音処理が十分でない部屋ではこのスイッチを ON にすることをお薦めします。
- **BASS TILT（SW3、SW4）：**低域の減衰量を調整します。パネル面に印刷された説明のように 3 段階の調整が可能です。聴取距離が近い場合も近接効果で低域が盛り上がる場合がありますのでこの調整が有効です。
- **BASS ROLL-OFF（SW2）：**85 Hz よりも下のかなり低い帯域を減衰させるときに使います。また、7050B サブウーファーを併用する場合は常時 ON にしてください。

工場出荷時の設定は全部のスイッチが OFF 側にセットされています。このトーン・コントロールを行うときは、必ず一度、すべてのスイッチを OFF にしてから始めてください。音響測定などでキャリブレーションを実行したときに L ch と R ch でスイッチ設定が違っても音響的には正しい場合もあります。

図 1：音響軸の位置

図 2：アンバランスのソースを使う場合に必要なケーブル（RCA 出力から XLR 入力への例）
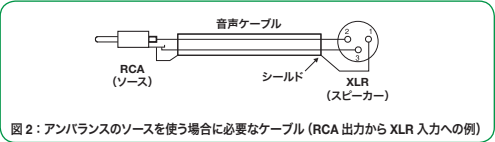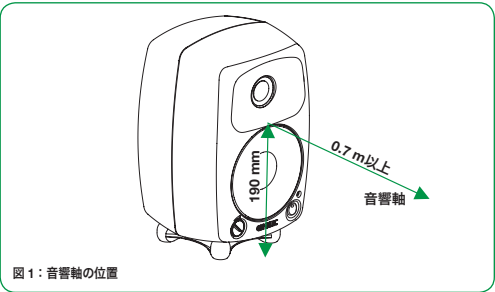
表 1：様々な音環境に対するトーン・コントロールの推奨設定

スピーカーが設置される場所の音響環境	TREBLE TILT	BASS TILT	BASS ROLL-OFF
音響反射のない無響室	OFF	OFF	OFF
吸音処理された部屋でフロアスタンドに設置	OFF	OFF	OFF
音響反射がある部屋でフロアスタンドに設置	OFF	-2 dB	OFF
ニアフィールド / 音声卓のメーターブリッジ上	OFF	-4 dB	OFF
背面と壁の距離が近い場合	OFF	-6 dB	OFF
7050B サブウーファーと併用する場合	上記参照	上記参照	ON

マウント設置時の注意点

設置時にスピーカー角度は正確に合わせてください。図 1 の音響軸を参考にして、リスニング位置にぴったりと合わせます。また、できれば縦置きに設置することをお薦めします。縦置きにすればクロスオーバー周波数付近の音響特性の乱れを最小限にとどめることができます。

ステレオ使用の場合は左右対称になるように設置してください。そして、左右のスピーカーから等距離の位置で聴いてください。さらに、可能であれば部屋の中心位置で聴けるようなセッティングをお薦めします。

聴取する部屋の中では様々な音響反射が発生してしまいます。スピーカーが再生する直接音とその部屋の音響反射による反射音が影響しあって干渉が起きた場合は、スピーカーの音質が著しく劣化してしまいます。8030A は音響反射を減少させる形状に設計されていますが、本体形状だけでは不十分な場合があります。この音響干渉をできるだけ避けるために、スピーカーのセッティングはとても大切です。

ミキシング・コンソールのメーターブリッジ上に設置するとコンソールのパネル面からの音響反射が増えて音響干渉を起こすことが多くなります。これを避けるためには、スピーカー・アクセサリーの卓上スタンドやフロア・スタンドを使用することが有効です。

スピーカーの背面と壁の距離は、最低限アンプ部の発熱が壁に伝わらない程度で、バスレフ・ポートをふさがない程度の隙間があれば大丈夫です。具体的には 5 cm 以上の空間があれば問題ありません。ただし、動作時の部屋の温度が 35℃を越えないようにしてください。背面と壁の距離が近くなると低域のレベルが変化しますので、確認及びトーン・コントロールで低域を調整してください。

マウント方法の選択肢

8030A を音響的に最適なポジションにセッティングするために様々なアクセサリー類が用意されています。

Iso-Pod ™（IsolationPositioner/Decoupler）は本体に標準装備されているもので、エンクロージャー下部に取り付けられています。振動を遮断する機能を持つと共に音響軸をリスニング・ポイントに向けて垂直方向の角度調整を正確に行えます。

アルミダイキャスト製のエンクロージャーには固定用のねじ穴があります。底面に 3/8 インチ（UNC）のマイク・ホルダーと同じねじ穴、背面には M6×10 mm のねじ穴が 2 箇所あり、純正マウント金具などに適合します。その他、卓上スタンド、フロア・スタンド、天井取付け金具、壁取付金具等が用意されています。

メンテナンス

本機のパーツ交換等はユーザーが行うことを想定しておりません。修理やメンテナンスは必ず資格のあるサービスマンにご依頼ください。

安全に関する注意事項

8030A は国際安全基準に従って製造されておりますが、安心して使っていただくためには以下の事項にご注意ください。

- 本体の分解や改造は大変危険です。エンクロージャーを開けて内部を見ることも絶対にしないでください。
- 付属している電源ケーブルをお使いください。社外品の電源ケーブルを使うことはお薦めしません。
- 本体を水で濡らしたり、水分が付着した状態では使わないでください。
- 花瓶や水槽など水が入った容器を近くに置かないでください。
- 8030A は 85 dB SPL 以上の音圧レベルを再生できます。長時間の連続聴取で聴覚障害を引き起こす可能性があります。
- スピーカー本体の後ろ側にはアンプ部の冷却のために空気が流れる空間が必要です。
- 電源コードは電源コンセントにしっかりと差し込んで、緩みがないか確認してください。
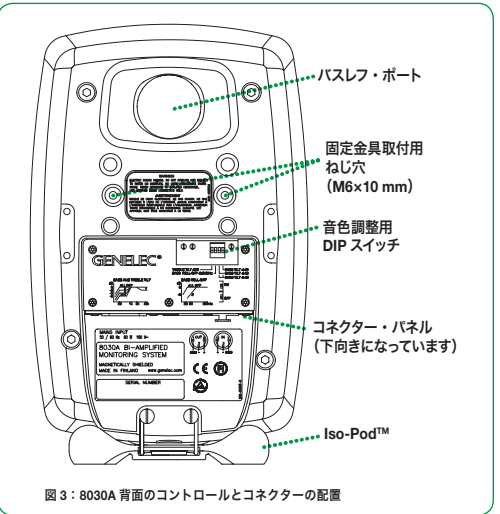
図 3：8030A 背面のコントロールとコネクターの配置

図 4：トーン・コントロールの周波数特性

図 5：水平角度の違いによる周波数特性の変化（上側）とシステム特性（下側）

システム・トータル特性
低域カットオフ周波数　≦ 55 Hz
高域カットオフ周波数　≧ 21 kHz
周波数特性　58 Hz ～ 20 kHz（±2.0 dB）
瞬間最大音圧レベル（100 Hz ～ 3 kHz）　≧ 100 dB SPL（@1 m）、≧ 106 dB SPL（@ 0.5 m）
定格音圧　≧ 97 dB SPL（@1 m）
ミュージック・パワー　≧ 108 dB SPL（@1 m）
残留ノイズ・レベル　≦ 10 dB（A-WTD）
高調波歪（@1 m、85 dB SPL）　＜ 2%（50 ～ 100 Hz）、＜ 0.5%（100 Hz ～）
ドライバー・ユニット（防磁）
　ウーファー＝ 130 mm コーン型
　ツィーター＝ 19 mm メタルドーム型
重量　5.6 kg
外形寸法（W×H×D）　189×285×178 mm（Iso-Pod 付き高さ 299 mm）

クロスオーバー・セクション
入力コネクター　XLR メス 10 kΩ、バランス（2 番 Hot）
出力コネクター　XLR オス 100 kΩ、バランス（2 番 Hot）
入力感度　-6 dBu（1 m 位置で 100 dB SPL、音量ボリューム MAX 時）
ボリューム調整範囲　-80 dB ～∞（入力レベルによってはボリュームを絞り切っても音が漏れ聴こえる場合があります）
クロスオーバー周波数　3.0 kHz
Treble Tilt 可変量　-2 dB（@ 15 kHz）
Bass Roll-off 可変量　-6 dB（@ 85 kHz、7050B サブウーファー併用時に使用）
Bass Tilt 可変量　0、-2、-4、-6 dB（@ 100 Hz）
工場出荷時設定　Treble Tilt/Bass Roll-off/Bass Tilt すべて OFF、ボリューム位置 MAX

パワーアンプ部特性（ドライバー・ユニットの保護のため出力制限回路あり）
低域用パワーアンプ定格出力　40 W（8 Ω）
高域用パワーアンプ定格出力　40 W（8 Ω）
歪特性
　THD　≦ 0.05%
　SMPTE-IM　≦ 0.05%
　CCIF-IM　≦ 0.05%
　DIM 100　≦ 0.05%
SN 比（最大出力基準）
　低域　≧ 100 dB
　高域　≧ 100 dB
電源電圧　AC 100 V（±10%）
消費電力　10 W（無信号時）、80 W（最大出力時）

仕様及び外観は予告なく変更になる場合があります。

オプション・アクセサリー
7050B　ステレオ推奨サブウーファー
7060B　5.1、6.1 LEF 用サブウーファー
8000-402B　壁取付金具（ブラック）
8000-402W　壁取付金具（ホワイト）
8030-412B　壁取付金具（ブラック）
8030-412W　壁取付金具（ホワイト）
8030-435B　天井壁取付金具（ブラック）
8030-435W　天井取付金具（ホワイト）
8000-406　17 cm 卓上スタンド
8000-409B　フロア・スタンド・ベース
8030-408　スタンド固定プレート（8000-409B と併用）
8030-422　2 台収納ソフトケース

品質保証
8030A は購入後 2 年以内に製造上の問題が原因で故障した場合は無償修理いたします。修理等については購入された販売店またはオタリテック株式会社にお問い合わせください。

オタリテック修理窓口
〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-30-16
オタリテック株式会社　技術部サービス課
TEL 03-6457-6022 ／ FAX 03-5285-5282
電話受付時間　平日 9:10 ～ 17:50

修理依頼時の確認事項
1. 型番 8030A（ハチゼロサンゼロエー）
2. シリアル番号（本体背面に表示）
3. 購入年月日 / 製品登録カードの有無
4. お買い上げの販売店名
5. ご使用時の電源電圧
6. 故障の症状

GENELEC 日本総代理店
オタリテック株式会社
〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-30-16
TEL 03-6457-6021 ／ FAX 03-5285-5281　www.otaritec.co.jp

OTS3-205

8030A

Operating Manual
GENELEC 8030A
Active Monitoring System

GENELEC®

オタリテック株式会社

Ed1.1 2012-06